

『カフナ』 バリエーション・ルール集

<http://www.bambusspiele.de/spiele/kahuna/varianten.htm>

ドッペルカフナ

『カフナ』1セットでは、すべてのカードが使われたかどうか記憶してしまえる頭脳派プレイヤー向けのバリエーションです。次の追加を除き、ルールは何ひとつ変わりません。

単に『カフナ』のゲームを2セット用意してください（すなわちボード2枚、カード2セット、ただし手札上限は同じ）。同じ名前の島が2つあるので、そのどちらにつながる島に橋を配置してもかまいません。

このバリエーションは、私たちにとっては2倍以上の楽しさをもたらすため、ほとんどこのルールでしか遊ばないぐらいです。

—— ミルコ・リューダー（Spielboxのフォーラム）

『アラバナ=オポドポ』 式スコアリング

ラウンド間の得点計算時、支配した島ごとに基本で1ポイント獲得するだけでなく、「橋のない予定地」と「相手の橋」（すなわち自分の橋のない予定地）の合計数を、追加ポイントとします。

こうすることによって、特定の島に閉じこもる作戦は、魅力的ではなくなります。

—— ギュンター・コルネット

（『アラバナ=オポドポ』別名『カナロア』とは、『カフナ』を2～4人向けにした別のゲームのことです）

<http://www.bambusspiele.de/spiele/opodopo/opodopo.htm>

『カフナ』は未就学児童向けか？

幼い子供でも『カフナ』で遊べるようになるルールを、ここに提案いたします。

このルールは、私たちの共同作業によって生まれました。私の双子の子供たち（当時4歳）は、よく私のゲーム（『カフナ』『ハリ』『ロケット』『トールス』『モノポリー：ユーロ』……）のパーツで遊んでいるのですが、そんななかから、彼らなりにルールを思いつくようなのです。

『カフナ』については、次のようなルールができあがりました。

カードは全てまとめて山札として裏向きに置き、交互に1枚ずつ引いていく。

引いたカードで指定された島に、まだカフナストーンが置かれていなければ（自分の色）のカフナストーンを1個置き、その島に接する予定地の1つに（自分の色の）橋を1本配置する。

その島にすでにカフナストーンが置かれていれば、橋を1本配置するだけにする。

その島にすでにカフナストーンが置かれているだけでなく、その島に通じる全ての予定地に既に橋が置かれているなら、何もしない。

ここまですべてが子供たちによるアイデアで、ここからが私による追加ルールです。

山札がなくなったら各島で点数を確認する。相手の橋のほうが数が多ければ0点、そうでなければ1点獲得。

私はここから、この年齢層にとってプラスとなる学習効果（遊んで学ぶ）を見出しました。

- ・ ルールの遵守
- ・ 小さな数の計算／比較
- ・ 点数計算の際に「触らずに数える」こと
- ・ カードを使った頭脳訓練（カードで指示された島をゲームボード上で探す）

—— ユルゲン・ヘルビヒ：2002年2月5日の電子メール

こどもと『カフナ』体験：その1

試しに4歳の息子と『カフナ』を遊んでみたのですが、驚くべき成功を収めました。

1ラウンドしかプレイしなかったので、運の要素は大きかったのですが、テリトリーという考えかたと、「攻撃を受ける島々」という概念が、とても面白かったようなのです。カード名（4文字まで）を地図上の島名と一致させるという作業もまた、彼にとつていい頭の体操となり、私はそれを喜ばしく思いました。

7歳児なら、もう問題なくプレイできそうな印象ですし、他の子供向けゲームとは一線を画していますね。

—— グレアム・ウィルス：2000年12月8日 rec.games.board

こどもと『カフナ』体験：その2

他に誰か、『カフナ』を純粋なアブストラクト・ゲームとして遊んだ人は、いないでしょうか？

つまりカードを使わず、手番では予定地に橋を置くだけです。まず先攻が、好きな空白の予定地に橋を置きます。後攻は同様にプレイするか、先攻の有利さを相殺するために色を取り替えるかを選びます。

私はこれで3歳半の息子としか対戦していませんが、勝つのは思ったほど簡単ではありませんでした。

誰かこのバージョンで遊んだ人はいないでしょうか？ ……私は、この方法で遊べるような追加ルールを考案しました。

既に自分が支配している島なら、橋を置く代わりに、2個目のカフナストーンを置くことができますようにします。この〈島の強化〉によって、その島は永続的に自分のものになります（つまりその島に、敵は新たに橋を置くことができなくなるだけでなく、あなたは橋を失ってもその島の支配権は失わないのです）。

まだそれほどこのルールで回数をこなしていないので、どなたかこれについての意見や、そのほかのバリエーションの提案があれば、ぜひ教えてください。

—— ビル・キャンベル：1998年11月25日 rec.games.board

こどもと『カフナ』体験：その3

最近、コスモス/リオグランデの2人用ゲーム『カフナ』を5歳の娘とプレイしました。彼女も大いに楽しんだようで、私に対して全く容赦がありません。

……娘はルールを完全に把握しており、いつでも橋を置くか（カードを1枚使うか）、そしていつ相手の橋を取り除くか（カードを2枚使うか）を見極める眼がありました。戦略におぼつかない部分はありますが、そんなことはプレイを重ねれば克服できますし、あと1年もすればいろいろ理解できるようになるでしょう。箱にははっきり「10歳以上」と書かれてありますが、私は『カフナ』を知的な子供向けのゲームと分類します。

—— ジョー・チャプスキー：2001年

トリッキーカフナ

最近私の息子（12歳）が、ゲームを激化させるアイデアを思いつきました。

……彼は突然、カード2枚を使って自分の(!)橋を取り除き、もう1枚使って再び同じ予定地に橋を置いたのです。

彼はそれによってフナの支配権を一時的に失いましたが、再びそのフナを支配してデュエダとエルアイにかかっていた私の橋計2本を取り除き、私はエルアイでの支配権を失いました。ルールには当然ないことなので、その場では抗議しましたが、よりシビアなゲームを楽しみたいプレイヤーにとっては、このルールも悪くないと思直しました。

—— ユルゲン・ヘルビヒ：2002年2月5日の電子メール

アイランドポーカー

初出は、バンブースタイズ第2号です。

用意するもの

- ・『カフナ』のボード：1枚
- ・橋：25本程度
- ・カフナストーン：各1個
- ・トランプ：32枚（※各スートの2から6を除く）

ただし通常のトランプでは大きすぎるため、島に合う大きさになるよう切断するか、極小タイプのトランプを使用するのが望ましいです。もしくは5ページの付録を使用のこと。

○ルール

1. カードを2枚ずつ公開し、下のカードが見えるよう少しずらして重ね、各島に配置します。残りのカードは、裏向きの山札として、ゲームボードわきに配置します。
2. 各プレイヤーは、交互に島を1つ選んで、開始位置として自分のカフナストーンを置きます。カフナストーンは、どちらのものでも（この時点でもプレイ中でも）同時に同じ島に存在することはできません。
3. スタートプレイヤーは、自分のカフナストーンを隣の島に移動させます。その際カフナストーンが通過した予定地に、橋を置いてください。橋が置かれた場所は、以降プレイ中、通過できなくなります。
4. 移動した先の島にあるカードのうち上の1枚を取り、自分の手元に伏せて置きます。その後、山札からカードを1枚引いて公開し、その島に残ったカードの下に差し込みます。
5. 相手プレイヤーに手番が移ります（繰り返し）。
6. 8枚目のカードを獲得するプレイヤーは、その直前、手元の7枚のうち1枚を、ゲームから取り除かなければなりません。
7. 両プレイヤーとも手番で移動できない、もしくは移動したくない場合、ゲームが終了します。
8. 各プレイヤーは、手元にあるカードから5枚選びます。その5枚で、最も価値の高いポーカーの役を作ったプレイヤーが勝利します。

○選択ギャンブル・ルール

- カードの配置時、1枚を表、もう1枚を裏にして置きます。カードを取る際、どちらを取ってもかまいません。カードを島に追加する際、直前に表のカードをとったなら公開し、直前に裏のカードを取ったなら裏のまま追加します。
- 手番と手番の間に、ポーカーと同じように、掛け金を賭けるラウンドを挟みます。

ハートのカフナ

『Lanko』というゲームの共作者アンドレイ・コルチャックによる、バリエーションです（『Lanko』のもうひとりの作者はクリスティナ・ランドフスカ）。

http://www.bambusspiele.de/spiele/lanko/e_lanko_fr.htm

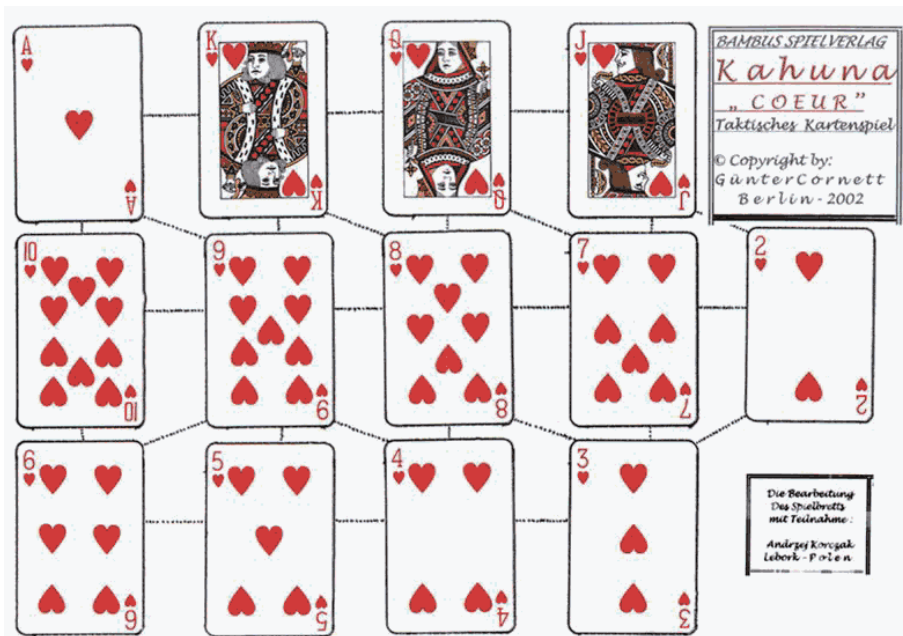
彼は『コントラクト・ブリッジ』のプレイヤーであるため普段からトランプに親しんでおり、『カフナ』の地図をトランプで見やすく定期的に再現しました。

用意するもの

- 点線でつないだ13枚のトランプのカード（島）による地図：1枚（4ページ上の図面を印刷し、両プレイヤー間に配置してください）
- 橋：50本（白黒各25本）
- カフナストーン：20個（白黒各10個）
- カード：28枚（2つのスートの1～13＋ジョーカー2枚）

ルールの追加

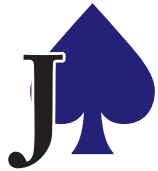
ジョーカーは、1枚使用するだけで、任意の相手の橋1本を取り除くか、任意の予定地に自分の橋1本をかけることができます。それ以外は『カフナ』のルールと同じです（プレイしたカードの数字に一致する島から出ている点線《予定地》のうち1つに、自分の色の橋を配置するなど）。



別の地図

次に紹介するのは『カフナ』と同じく島が12個の地図(右)ですが、トランプが2セット必要になります。地図上の島と同じ札を2枚ずつ24枚でプレイ可能です(ジョーカーは不要です)。





アイランドポーカー用小型カード